

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【公開番号】特開2014-187943(P2014-187943A)

【公開日】平成26年10月6日(2014.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-055

【出願番号】特願2013-67032(P2013-67032)

【国際特許分類】

A 0 1 F 12/46 (2006.01)

【F I】

A 0 1 F 12/46

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月5日(2016.1.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

ディスプレイ 4 5 は、穀粒タンク 1 5 に貯留された穀粒の『貯留体積量』を表示する『貯留体積量モード』、エンジン 1 1 における燃料噴射量の積算値である『燃料消費量』を表示可能な『燃料消費量表示モード』等の複数の表示モードが備えられている。ディスプレイ 4 5 は、不図示の切替スイッチの短押操作によって特定の表示モードから他の表示モードへと、順繰りに切替可能に構成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

選択部 5 0 は、排出クラッチ 4 2、株元センサ 2 6、回転センサ 2 3 の各状況に応じて、『貯留体積量モード』におけるディスプレイ 4 5 に、リアルタイムの『貯留体積量』、確定された『貯留体積量』のいずれを表示させるべきかを選択する。選択部 5 0 は、排出クラッチ 4 2、株元センサ 2 6、回転センサ 2 3、演算部 5 1 に接続されている。選択部 5 0 は、通常、『リアルタイム表示信号』を演算部 5 1 に出力し続けている。但し、排出クラッチ 4 2 が切り状態から入り状態になったことを確認すると、『記憶指令信号』を演算部 5 1 へ出力するとともに、『リアルタイム表示信号』の代わりに『確定表示信号』を演算部 5 1 へ出力し続ける。そして、選択部 5 0 は、この状態から、株元センサ 2 6 が検出状態になり、かつ、回転センサ 2 3 が駆動軸の回転を検出している検出状態になると、再び、『確定表示信号』の代わりに『リアルタイム表示信号』を演算部 5 1 へ出力し続ける状態へ復帰する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

演算部 5 1 は、重量センサ 2 8 および品質センサ 2 7 からの情報に基づいて穀粒タンク

１５内に貯留された穀粒の『貯留体積量』を演算する。演算部５１は、重量センサ２８、品質センサ２７、判定部５２、表示指令部５５に接続されている。演算部５１は、重量センサ２８により計測された穀粒タンク１５の重量から、穀粒タンク１５の風袋重量を減算して、穀粒タンク１５内に貯留された穀粒の『概算重量』を演算するように構成されている。そして、演算部５１は、品質センサ２７により測定された穀粒の水分値やタンパク値に基づいて、記憶部５７に予め記憶された穀粒の水分値やタンパク値等に対応した『比重値』を読み出す。そして、演算部５１は、重量センサ２８による計測に基づく穀粒タンク１５内に貯留された穀粒の『概算重量』と、品質センサ２７により検出された穀粒の水分値やタンパク値等により決定される『比重値』と、に基づいて、穀粒タンク１５内に貯留された穀粒の『貯留体積量』を演算する。演算部５１は、選択部５０から『リアルタイム表示信号』を入力している間は、『貯留体積量』をリアルタイムに判定部５２および表示指令部５５へ出力し続けるように構成されている。また、演算部５１は、選択部５０から『確定表示信号』を入力すると、排出クラッチ４２が切り状態から入り状態になる直前、すなわち、排出オーガ４１が作動される直前時に演算した貯留体積量を確定された『貯留体積量』として記憶部５７に記憶させる。そして、演算部５１は、選択部５０から『確定表示信号』を入力している間は、表示指令部５５に、『読出表示信号』を出力し続けるように構成されている。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３７】

変更部５４は、判定部５２に設定された『閾値』を『新たな閾値』に変更する。変更部５４は、入力装置４４、判定部５２、通信部５３、に接続されている。変更部５４は、入力装置４４から『新たな閾値』の入力があると、判定部５２において設定されている『閾値』を『新たな閾値』へ変更できるように構成されている。変更部５４は、外部サーバ６０から通信部５３を介して入力された『新たな閾値』等の含まれた情報に基づいて『閾値』を変更可能に構成されている。つまり、変更部５４は、通信部５３から『新たな閾値』が入力されると、判定部５２において設定されている『閾値』を『新たな閾値』へ変更できるように構成されている。変更部５４は、入力装置４４と通信部５３とから同時に『新たな閾値』の入力があると、判定部５２において設定されている『閾値』を、通信部５３から入力された『新たな閾値』へ変更する。また、変更部５４は、入力装置４４から『新たな閾値』が入力されると、入力装置４４によって『閾値』が変更された事実および変更後の『新たな閾値』等が含まれた変更結果の情報を通信部５３へ出力する。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３８】

表示指令部５５は、リアルタイムの『貯留体積量』、あるいは、確定された『貯留体積量』を、『貯留体積量モード』におけるディスプレイ４５に表示させる。表示指令部５５は、演算部５１、ディスプレイ４５、に接続されている。表示指令部５５に備えられている記憶部５７は、各種情報を記憶・消去可能に構成されている。記憶部５７には、記憶された穀粒の水分値やタンパク値毎の『比重値』が予め記憶されている。また、記憶部５７には、演算部５１から入力される確定された『貯留体積量』が記憶される。また、詳細は省略するが、記憶部５７には、エンジン１１における燃料噴射量の積算値である『燃料消費量』がリアルタイムに記憶されるように構成されている。表示指令部５５は、演算部５１からリアルタイムの『貯留体積量』を入力している間は、『貯留体積量モード』におけ

るディスプレイ４５に、そのリアルタイムの『貯留体積量』を『貯留体積量モード』におけるディスプレイ４５に表示させ続ける。そして、表示指令部５５は、演算部５１から『読出表示信号』を入力している間は、記憶部５７に記憶されている確定された『貯留体積量』を『貯留体積量モード』におけるディスプレイ４５に表示させ続ける。